

海外新着情報（9月更新）

海外新着情報では、神奈川県との協力による海外駐在員との連携の中で得た「海外での企業活動の現状に関する情報」をご案内します。

○ 中国

・公共の場所でのワクチン接種記録の提示要求について～中国・大連～

（2021年8月27日）

中国遼寧省・大連市当局は、8月末から、医療機関、社会福祉養老機関、銀行、ショッピングモールやスーパーマーケット、市場、文化娯楽施設、ホテル、レストラン、駅、空港及び政府機関等の公共の場所において全面的に、【三碼聯查】を実施すると公表しました。

【三碼聯查】とは、「遼事通健康碼」、「(国務院)行程コード」という2種類の健康コード及び「ワクチン接種記録」の3つを、携帯電話のアプリを通じて確認することです。

現時点では、大連市政府は、ワクチン接種記録を提示できない場合でも、上記各種施設への入場を拒否されるものではなく、ワクチン接種を推奨するのみとしています。今後状況が変わる可能性もあり、注意が必要とされています。

大連市では、既に18歳以上の市民の80%以上がワクチン接種済みであるものの、デルタ株の感染拡大が警戒される中、ワクチン接種の強い呼びかけがなされています。

○ 東南アジア地域

・工場の防疫措置の強化 ～ タイ・バンコク ～

（2021年8月30日）

タイ国内の新型コロナウイルス新規感染者は、8月11日以降9日連続で2万人を超え、13日には過去最多となる2万3,418人を記録しましたが、22日に2万人をきり、ピークアウトの兆しが見え始めています。

一方、工場内でのクラスター発生により生産停止せざる得ない状況が続いており、今年4月1日～8月17日までの期間で国内では700以上の工場、計5万人以上の感染者が発生しています。

タイ政府は、工場従業員の行動を制限することで感染を防ぐ防疫措置の強化を発表し

ましたが、現場での運用を巡っては混乱も生じています。

- 人口の80%が新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を完了し、8月20日から入国規制を一部緩和 ～ シンガポール ～

(2021年8月30日)

シンガポール政府は、新型コロナウイルスの感染対策として実施している入国規制を一部で緩和すると発表しました。その内容は、8月20日深夜から香港・マカオからの隔離なしの入国を認めたこと、9月8日からはドイツとブルネイを対象に、新たな枠組み「ワクチントラベルレーン」のもと、ワクチン接種を完了した人を対象に、隔離なしの入国を認めるとのことでした。

なお、8月29日時点でシンガポールの人口の80%が新型コロナウイルス感染症の2回目のワクチン接種を完了したと発表しました。

- 8月23日からホーチミン市で都市封鎖のため軍隊配備

～ ベトナム・ホーチミン ～ (2021年8月30日)

8月23日から開始されたホーチミン市での厳しい都市封鎖に当たり、スーパーでのパニック買いなどに対応するため軍隊が配備され、食料の配給などを行いました。

○ 北米地域

- 米国・ニューヨーク市での屋内飲食時等のワクチン接種証明の義務化

～ 米国・ニューヨーク市 ～ (2021年8月16日)

ニューヨーク市は、新型コロナウイルス感染予防を強化するため、屋内飲食など(※)の際にワクチン接種証明を義務化する措置(Key to NYC)を発表しました。市内での屋内飲食などの際に、12歳以上の利用客はFDAまたはWHOにおいて緊急使用が承認されたワクチンを少なくとも1回接種していることを示す証明が求められます。なお、この措置は、8月17日(火)から開始され、9月13日(月)から義務化される予定です。

※ 屋内飲食、屋内でのフィットネス、屋内娯楽施設及び興業(劇場、美術館など)